

京阪グループ各社の 地球温暖化防止の取り組み

■ 路面電車を利用した 低炭素型集配システム

京福電気鉄道(株)は、ヤマト運輸(株)と共同で、京都市嵐山周辺のCO₂削減をテーマに、路面電車(嵐電)を活用した宅急便の輸送を行っています。

西院車庫で宅急便の入った台車を積み込み、貸切の嵐電で輸送、途中の停車駅で台車を降ろし、セールスドライバーがリヤカー付き電動自転車で配達するというもので、地域の環境保全や渋滞緩和につながっています。

環境負荷低減への貢献が評価され、両社は「平成26年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰」を受賞しています。



荷物の積み込み

貸切車両で輸送

■ バス会社における環境負荷低減の 取り組み

環境負荷低減の取り組みとして、京阪グループのバス会社では、自動アイドリングストップ装置付き車両などの低公害車両の積極的な導入やエコドライブの推進による燃費の改善、燃料使用量の抑制に努めています。また、環境マネジメントシステムを通じて①アイドリングストップを含むエコドライブ活動の強化、②新排出ガス規制適合車両への代替、③冷暖房の適温設定・照明の適正使用による電力消費量の削減などの取り組みを行っています。



アイドリングストップバス(京都バス)

■ 京阪百貨店守口店のCO₂削減の取り組み

(株)京阪百貨店では、守口店に、大幅なCO₂削減を可能とする空調システムを平成27年4月に導入しました。館内の冷房に活用する冷却水の水温や水量を適切にコントロールするもので、空調に要する冷温水ポンプの電力使用量の約60%削減につながっています。

また、同店では、館内照明のLED化も推進しており、平成28年4月、基本照明のLED化が完了しました。

これらの取り組みにより、同店全体の平成27年度の電力使用量は約4%削減できました。



新しい空調システム

■ 「KUZUHA MALL」の環境負荷低減に 対する取り組み

「KUZUHA MALL」では、平成26年3月のリニューアルに伴い、屋内外とも光源はすべてLED化し、従来と比べ、共用通路部で60~75%のCO₂削減を実現しました。優れた省エネ性とデザインは、平成26年度の環境省「第5回省エネ・照明デザインアワード」で、商業・宿泊施設部門の優秀事例に選定されています。

また、夜間電力を活用した氷蓄熱型空調システムを採用するとともに、南館屋上には約70,000kWh/年の発電量を持つ太陽光パネルを設置、本館・南館の屋上と壁面には緑化を施しています。電気自動車充電スペースも4台確保し、環境にやさしいショッピングセンターを目指しました。

そのほか、お客さまに緑を感じていただけるよう、エントランス回りに効果的に植栽を配置しています。



ハナノモール・ミドリノモール外観

太陽光パネルと屋上緑化

■ 環境・社会配慮型物流施設の建設

当社が建設した内陸型物流施設「京阪淀口ジスティクスヤード」が、平成28年4月に全面開業しました(P.17参照)。

この施設の屋上には約120万kWh/年(一般家庭320世帯分)の発電量を持つ太陽光パネルが、建物南側には緑地帯が配され、館内照明にはLED照明を採用。また、災害ボランティアセンターに関する協定を締結しており、災害時の防災拠点としても活用可能です。これらの点が評価され、(株)日本政策投資銀行より「極めて優れた『環境・社会への配慮』がなされたビル」として、「DBJ Green Building認証」を取得しています。



屋上の太陽光パネル



DBJ表彰楯